

報告書

地域社会における障がい児スポーツの普及
—障がいを持った子どものスポーツキャンプの実践—

スポーツ健康学科 小松昌久

§ 1 はじめに

障がい者スポーツは広く一般的に楽しまれるようになってきている。しかし、その参加者の多くは中途障がい者であり、大人の障がい者がほとんどである。障がいを持った子供の親は「スポーツをさせたいが教えてくれるところが無い」「どのようなスポーツができるのかわからない」「スポーツ用の車椅子に乗せてみたいが機会が無い」などという悩みを抱えている。

こうした声を受けて本研究では、「障害児にスポーツプログラムを提供する」とともに「障害を持つ子供たちの横のつながり作り」を行い、地域における障がい児スポーツの底辺作りを模索してみようと考えた。

本稿では、「障がい児スポーツのプログラム検討」及び「障がい児スポーツの底辺拡大」に向けて、実践的に探求した、その成果と課題について報告する。

§ 2 障がい児スポーツ普及の課題

地域で生活する障害を持った子供の、スポーツをするチャンスとそれを実現する土台作りをどのように行うか、その際の課題について考える。実現するためにいくつかのステップが必要であると思われるが、内容的にも、主に障がい児に関するものとその親の対応力の向上に関するものに分類出来そうである。この章では課題となるであろう5つの項目を、2つに分類して示したい。

2. 1 障がい児がスポーツできる機会の提供

(1) 体験の場の設定

まずは障がい児がスポーツを体験できる場を設定することから始めなければならない。そこで、長野県内の肢体不自由児とその親を集めて、スポーツ体験を行う。

(2) スポーツの創造

スポーツを行いながら、肢体不自由児に親しみやすいスポーツの創造にチャレンジする。どのような形態を取れば、障がい児が充実感をもち楽しめる内容になるのかは、これから探求すべき課題である。

2. 2 障がい児の親の対応力向上

(3) 子供の可能性の認識

親子でスポーツを楽しむことにより、子供の可能性を再認識する。多くの子供達が集まる中でそれぞれの子供の活動を見て初めて理解できることもあるだろう。その意味では、新しい可能性を見出すことができる場となるかもしれない。

(4) 親の健康づくり学習

子供だけのプログラムと平行し、親のみで栄養指導など健康維持のための学習プログラムを行う。組織的な取組が行われることによって、多様な学びを展開できる可能性が開ける。

(5) 育児の視点

(4)と同じように、スポーツと心との関連性からは、育児に役立つようなヒントを学ぶことも出来るであろう。

以上のような取組は、人的な面でも財政的な面でも、組織的に対応されなければ難しいと予想できる。

§ 3 障がい児スポーツ普及の具体化 —スポーツキャンプの実施—

前章での課題意識に基づいて、具体的な取組を実施した。ここではその方法や実施内容の成果について考察しておきたい。

3. 1 障がい児へのスポーツの機会提供の方法

長野県障がい者スポーツ協会と協力し、〈チャレンジドキッズクラブ〉を運営する。その一環として、松本大学では〈スポーツひろば〉という名称で定期的な活動を実施したい。こうした活動を通じて、スポーツキャンプ開催へとつなげていく。(スポーツキャンプの内容は、後で具体的な資料に基づいて簡単に説明される。)

3. 2 実施内容とその成果

この間長野県障がい者スポーツ協会と共同して実施した企画から、いくつもの貴重な経験が集積され、認識を深めることができた。これらを7つの項目にまとめておこう。

(1) 多様な障害に適合したスポーツプログラムの作成

長野県障がい者スポーツ協会と協力し、障がい児のためのスポーツプログラム〈チャレンジドキッズクラブ〉により、県内でスポーツ活動の機会を増やす事ができた。延べ開催回数33回、参加者総数306名であった。

(2) スポーツプログラムから将来の夢を持つ機会を作る

今年度は、FID バスケットボール連盟と協力し、長野県代表の強化合宿開催を行った。本研究の対象者は障がい児(18歳未満)であるが、その子供達はやがて大人になって社会に入っていく。その中で徐々にスポーツと触れ合う機会を失ってしまう事がしばしば聞かれる。スポーツ活動が長期的にわたって行え、しかも〈長野県の代表を目指す〉ことができるという、将来の展望を見せていくことは大変有意義であると考えての企画であった。

年間事業の中で各クラブチームの練習が定期的で開催されることはあるが、長野県代表チームの定期的かつ固定された練習場所の確保が大変重要と考えられた。

(3) 継続的なスポーツ活動につなげ、健康づくりを見直す機会とする

今回実施したプログラムは、主に障がい児を対象としたものであった。しかしそれ以外でも、障がい者スポーツの普及も含めて、〈福祉機器展〉にブッキングしてスポーツ体験会(主としてボッチャ)を開催したが、多数の参加者を得た。その多くは施設入所の方(高齢者)であったが、参加者からは「楽しい」「続けたい」「運動不足だったけれどこれならほかのヒトとも一緒にできる安全な遊びだ」といった声が聞かれた。生活のメリハリを作ると共に、QOLの向上への可能性が示唆された。

(4) スポーツの土台作りとして食事の重要性を理解する機会となる

キャンプを通し、バイキング方式で栄養のバランスの良い選び方を指導した。課題としては家族への栄養指導が必要と言うことであった。今後、回を重ねながら、運動と栄養と言った点に家族も着目できるように誘導していきたい。

(5) 地域に暮らす同じ世代の障がい者のつながりを作る契機となる

長野県内から松本大学に集まったことで、子ども同士のつながりというだけではなく、親同士が情報を共有する場として役立った印象を受ける。

(6) 地域に暮らす障害児のスポーツの活動拠点となる土台作りとなる

〈スポーツひろば〉として月1回の活動を展開しようとした。実際のところ「周知」に時間がかかり、ようやく定着したのは10月以降の2回であった。

(7) マンパワーの充実

また、障がい児のスポーツプログラムを実施するうえでは、マンパワーが必要である事がわかり、<サポーター>養成研修会を実施した。肢体・知的・精神の分野に関わる専門家に、障害の理解のための講義を開催していただいた。この研修会は2回に分けて実施し、講習受講と実技の2段階で行った。

サポートをしたいという強い希望を持っている方たちが参加されたが、今後「スポーツイベント」を独自に開催するに当たっては、何が必要になって来るのかなどの情報が不足しており、この点についての講習会の必要性を感じた。

§ 4 成果と今後の課題

(1) 日程の調整

子どものためのスポーツプログラムを展開するためには、定期的な活動と共に、参加する機会を増やし、受ける側の状況（子どもの体調や予定、家族の仕事の予定や体調）も考慮して展開する事が必要である事がわかった。スポーツひろばは、登録者が20人いても当日になると約3割の方しか参加ができないなどの実情も踏まえながら今後の展開を考慮する必要がある。

(2) 分野を超えた支援者の組織化

本事業展開の中で、スポーツ活動を支援したいと考えている人たちが多数いる事がわかり、その橋渡しのプログラムが重要である事が明らかになった。そのためサポーター研修を企画し、一定の成果を得た。

謝辞

松本大学「地域共同研究助成費」及び日本私立学校振興・共催事業団「私立大学等経常費補助金特別補助対象事業・知の拠点としての地域貢献支援メニュー群・地域共同研究支援」より補助金をいただいて本研究を行う事ができましたこと、ここに感謝申し上げます。

また、長野県障がい者スポーツ協会の皆さん方には、実践活動を行う上で全面的な協力を仰ぎました。また、本論考を投稿するにあたっては、住吉広行氏から貴重な示唆をいただきました。

資料1 サマーキャンプ実施要綱

サマーキャンプ

1. 開催趣旨

日頃、スポーツをする機会のない障がいを持つ子ども達が、様々なスポーツと同じ世代の子ども達と出会い、体験し、これから続けていける自分に合ったスポーツを見つける機会と友達のネットワーク作りをする機会を提供する。

2. 主 催

特定非営利活動法人長野県障がい者スポーツ協会

3. 協 力

長野県障害者スポーツ指導者協議会、松本大学、(株)松本スイミングセンター、障がい者スポーツ競技団体、信濃医療福祉センター

4. 開催日時

2008年8月9日(土)、10日(日)

5. 開催場所

8月9日(土)松本大学体育館、8月10日(日)松本スイミングセンター

6. 宿泊場所

松本大学セミナーハウス

7. 参加資格

チャレンジドキッズクラブ会員と準会員(兄弟等)

*多数応募の場合は選考させていただきます。

8. 費 用

参加費無料 ただし、保険料・宿泊料・食費等は実費負担、日帰り参加可能

9. 主な日程(次頁)

日程表(案) 第1日目

期日・時間	内 容	備 考
8月9日(土)		
13:00	受付開始	
13:30	キッズクラブサマーキャンプ 開会式	
13:40	キャンプの説明～自己紹介	
14:00	スポーツ体験	*トイレ休憩 *給水
16:00	終わりの会 17:00～移動	移動
17:00	夕食準備 参加者で自炊をする	
18:30	夕食&交流会(セミナーハウスにて) 夕食後、レクリエーション等実施	
20:30	入浴開始 明日の衣類の準備など	
21:30	消灯	

日程表(案) 第2日目

期日・時間	内 容	備 考
8月10日(日)		
7:00	起床	
7:30	朝の体操(トイレの促し)	
8:00	朝 食	
9:00	セミナーハウス出発 松本スイミングセンターへ 会場到着次第、トイレの確認	移動
10:00	スイミングスクール開始 体調を見て、随時休憩・採暖	
11:30	スクール終了 更衣	
12:00	キャンプ 閉会式 終了証書授与 閉会式後、アンケート実施	会議室
12:30	解散	

資料2 スポーツわくわく体験会実施要綱

チャレンジドキッズクラブ スポーツわくわく体験会開催要項

1. 目的

- (1) 障がいのある子ども達がスポーツや遊びを通して体を動かすことの楽しさを味わい、今後日常的にスポーツを楽しむきっかけとする。
- (2) 障がいのある子ども達が地域でスポーツを楽しむための情報を提供することで、地域の中でのネットワークの土台を作る。

2. 主催 NPO 法人長野県障がい者スポーツ協会チャレンジドキッズクラブ

3. 協力 松本大学／甲信越車いすテニス協会／長野県障害者フライングディスク協会／長野県電動車椅子サッカー協会

4. 日時 平成20年1月10日(土) 午後1時から3時まで

5. 会場 松本大学 第1体育館 (松本市新村2095-1)

6. 対象 特別支援を必要とする子どもとその兄弟(0～18歳)

※原則は、クラブ会員・準会員。それ以外の者は、クラブ会員になってもらうことを前提に受け入れる。

7. 定員 50名

8. 参加費用 無料

9. 日程

12:30～13:00	受付
13:00～13:30	開会あいさつ・ウォームアップ
13:30～14:45	スポーツ体験
14:45～15:00	クールダウン・閉会あいさつ

(詳細は別紙1)(省略)

10. 内容

- (1) スポーツ体験では、テニス(車いすテニス含む)、フライングディスク、フットサル、電動車椅子サッカーを行う。
- (2) 中南信エリアを中心として、障がい児へのスポーツ支援に関わる団体の紹介を入れたビラを作成し、参加者の親等へ配布する。(別紙2)(省略)
- (3) お汁粉を作り、参加者に無料提供する。

11. 申込期間 平成20年12月10日(水)～平成21年1月5日(月)

12. 申込方法 所定の申込用紙(別紙3)(省略)に必要事項を記入のうえ、当協会まで郵送またはFAXにて申し込む。

13. その他

- (1) 天候不良(大雪、吹雪等)のため、参加者の移動が困難と思われる場合は、中止とする。
- (2) 中止の判断は、当日朝7時の天気予報をもとに、事務局内で相談のうえ行う。
- (3) 中止となった場合は、参加予定者全員に電話にて連絡をする。

資料3 ウィンターキャンプ実施要綱

チャレンジドキッズクラブウィンターキャンプ開催要項

1. 開催趣旨

- ①県内の障がいのある子ども達（チャレンジドキッズ）にスキーをとおして、自然に親しみ、スポーツを楽しむ機会を提供し、心身の健康づくりと同世代の子ども達との交流を図る。
- ②スキーの基本動作の技術を習得するとともに、親子で自然の中でスキーを楽しむ、自然との一体感を味わう。
- ③自分の目標を立て、自分のペースで楽しみ、練習していく過程で、自信がわいてくるとともに、満足感や達成感を得る。

2. 主 催

特定非営利活動法人長野県障がい者スポーツ協会

3. 協 力

長野県理学療法士会
松本大学
長野県障害者スポーツ指導者協議会

4. 開催日時

2009年2月21日(土)～22日(日)

5. 開催場所

車山高原スキー場

6. 宿泊場所

車山高原スカイパークホテル

7. 参加資格

チャレンジドキッズクラブ会員と保護者
*応募多数の場合は抽選する。

8. 定員

15組最大35名まで

9. 費 用

参加費 大人（高校生以上）10,000円（宿泊料・食費・リフト代を含む）
子ども（中学生以下）7,000円（宿泊料・食費・リフト代を含む）

◇21日(土) 1日目

13:00~受付開始

13:30 ウィンターキャンプ 開会

はじめの会

それぞれ自己紹介をします!!

14:00 「体験教室①」

スキー、スノーシューイングなど

それぞれの希望に分かれてレッスン開始!!

16:00 スカイパークホテルに移動

夕食までに入浴できます

ひと休みして、疲れをいやしましょう

18:00 夕食

19:00 交流会

楽しいレクリエーションで盛り上がりましょう♪

交流会後、「スポーツクリニック」を開設します

20:00 入浴開始

21:30 おやすみなさい

明日の準備をしてから、寝ましょう

◇22日(日) 2日目

7:00 おはようございます

8:00 朝食

9:00 スカイパークホテル出発

スキー場へ移動

9:15 「親子で挑戦! 雪上レクリエーション」

何をするかは当日のお楽しみ!

10:30 「体験教室②」

スキー、スノーシューイングなど

それぞれの希望に分かれてレッスン開始!!

12:00 終了

12:10 ウィンターキャンプ 閉会

おわりの会

12:30 解散

おつかれさまでした!

資料4 サポーター講習会開催要項

チャレンジドキッズクラブサポーター養成研修会開催要領

1 目的

日頃、スポーツをする機会が少ない障がい児が、スポーツを通じて、心身の健康づくりと同世代の子ども達との交流を図り、生活の質を上げるため、障がい児のスポーツを指導するサポート指導者を養成することを目的とする。

2 主催

特定非営利活動法人長野県障がい者スポーツ協会

3 共催

長野県障害者スポーツ指導者協議会

4 協力

松本大学

5 期日

①平成20年12月6日(土)、②平成21年1月10日(土)

6 場所

松本大学(松本市新村2095-1)

7 受講対象者

次の要件の全てを満たす者

(1) 長野県在住者

(2) a. 障害者スポーツ指導員有資格者 または、
b. 今後、チャレンジドキッズクラブ事業に熱意を持って参加・協力できる者

(3) 2日間とも受講できる者

8 内容 平成20年12月6日(土)

時間	内容	場所
9:30~10:00	受付	松本大学 513号室 (5号館1階)
10:00~10:15	開講式	
10:15~12:00	「身体障害の特性」 講師：小松 昌久 (松本大学人間健康学部スポーツ健康学科) 「知的障害の特性」 講師：岡本 武己 (信濃医療福祉センター)	
12:00~13:00	昼食	
13:00~16:00	「子どもとの接し方」 講師：太田澄人 (長野県障害者福祉センター)	
16:10~16:25	閉講式	

※1月10日(土)は、チャレンジドキッズクラブ会員参加の「スポーツ体験会」の中で、子どもと接しながら実践していただく予定です。

9 受講料

無料

10 定員

30名

11 受講者の決定

定員を超えた場合は、選考とします。

(申込動機及び指導歴については、受講決定可否の参考となりますので詳しくご記入ください。)

12 修了証書

全課程を修了した者については、修了証書を交付します。

13 申込み

(1) 申込書を郵送または FAX にて下記まで送付してください。

〒381-0008 長野市下駒沢586

特定非営利活動法人長野県障がい者スポーツ協会 担当：袖山

TEL 026-295-3661 FAX 026-295-3662

(2) 申込み締切 平成20年11月25日(火) 必着

14 その他

・受講の可否は後日、本人宛に通知します。